

上宮寺通信

第七十二号

親鸞聖人と幽霊

毎日暑い日が続いています。

近年の暑さは異常ですが、クーラーのなかった時代にはよしずを立てたり、打ち水をしたり、風鈴の音を聞いたり…と、様々な工夫をしながら人々は暑さを乗り切っていました。

そんな工夫のひとつに怪談話があります。怖い話をしたり聞いたりして、肝を冷やす。暑い時の怪談話というのは江戸時代から広まったそうです。

怪談話につきものなのがお化けや幽霊です。しかし、基本的に浄土真宗では阿弥陀如来が生きとし生ける者すべての救済をお誓いされていますので、迷っ

ているお化けや幽霊が「いる」とは説きません(「いない」とも説いていませんが…)。でも親鸞聖人の伝説の中には幽霊を救うというお話もあります。背筋が寒くなるような怖い話ではありませんが、今回ご紹介します。

親鸞聖人が関東の稲田草庵におられた頃、弟子を連れて鹿島神宮にお参りにいかれました。途中の鳥栖というところに着くと、地頭の平高時(たいらのたかととき)が親鸞聖人をお願いを申し出てきました。

「お願いがございます。私の妻は難産がもとで十九歳という若さで死んでしまいました。墓は近くの無量寺ですが、そこには近くの無量寺です。どうか妻を成仏させていただけないで

しょうか」。

村の人たちも「奥さまは美しいお方だったので、幽霊となつてからは口が耳まで裂けてとても恐ろしいのです」と口々にいいます。

その話を聞いた親鸞聖人は、「それでは小石をたくさん集めて寺に持ってきてください」とお願いしました。村の人々はたくさん的小石を集めてきました。すると、親鸞聖人は何日もかけて小石の一つに一文ずつ浄土三部経二万六千六百十二字を書き、平高時の妻の幽霊が出るお墓に埋めました。その後、お経をあげ成仏を願ったのです。

以来、無量寺に幽霊が出ることはなくなりましたということ

怪談話が流行したのが江戸時代です。そのあたりに創作された話ではあると思うのですが、親鸞聖人が幽霊を救うというのは珍しい話です。

この話が伝わるお寺は寺号を無量寿寺とあらためて現在も茨城県鉾田市鳥栖にあります。親鸞聖人に救われた幽霊を描いた絵も伝わっていたのですが、二〇二一年に火災があり残念ながら焼失してしまったとのこと



◆行事案内

お盆 (孟蘭盆会) 法要

8月13日(火)・14日(水)

午前9時〜午後3時

場所：上宮寺本堂

※都合のつく時間にお参りください。

秋季彼岸会・永代経法要

9月8日(日) 午前10時

法要 引き続き 法話

法話 田中智教師

(名古屋別院主事)

※午前みの法要です。持ち帰り用の軽食をご用意いたします。

◆話題あれこれ

○お盆(孟蘭盆会)法要を8月13・14日の二日間行います。法名を読み上げさせていただきますので、ご自宅の位牌等で確認してメモしてきてください。暑い時期ですのでお気をつけてお越しください。

○9月8日には秋季彼岸会・永代経法要をおつとめいたします。法話は昨年引き続き、名古屋別院(東別院)の田中智教師に来ていただきます。残暑が厳しいと思いますが、皆様のご参詣をお待ちしております。

○毎年10月に行っています中部日本雅楽連盟の定期演奏会「舞楽と管絃の会」は、会場名古屋市芸術創造センター改修工事のため今年は中止することとなりました。来年は例年通り10月に行う予定です。楽しみにされていた方にはご迷惑をおかけします。

○連日の猛暑で体力も奪われていることと思います。どうぞお身体を大事にお過ごしください。



【雑感】

今年には愛知県体育館での最後の大相撲名古屋場所でした。昭和40年から約60年にわたり熱戦の舞台となった愛知県体育館の見納めということもあり、連日満員の大盛況。幸いなことに今年には土俵まわりの溜席で観戦することができました。迫力ある相撲を観ることができたのですが、なんとも狭い。あぐらをかきにも隣の人に気を使わなくてはいけない。観戦後には体のあちこちが痛くなってきました。来年からの新しい会場はもう少し広くしてほしいなあと思っています。(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和三十九年一丁目十九番十五号

☎052-871-0547



ホームページ



公式 LINE